

第3回ワーキンググループ

議事録執筆者：文化の家 山崎沙知

■日時：2013年6月20日(木)19:00～21:10 ころ 食文化室

■参加者：

〔ワーキンググループ〕

青山恵、岩瀬信廣、梅村智子、加藤裕美、加藤良行、黒柳栄、近藤均、島田善規、
都築徳紀、橋寛憲、広中省子

〔文化の家のスタッフ〕

榎山勝人、生田創、山田美代子、山崎沙知

■ワークショップのふりかえり(司会：広中省子)

○アルコールの提供について

望む声が多いが、公共施設で販売して良いのか。飲酒運転する者が出て良いのか。

→個人のモラルの問題。他の会館で酒類提供している会館ある。

→立地的に車の来客が多い事に留意すべき。

→子供向けの公演もあるので全ての公演で提供する必要は無い。coba 公演の「食と音楽の融合」のように、年に数回公演とのコラボによる提供で良いのではないか。

○ワークショップ意見の反映方法

・既に行っている行事（おんぱく、文化の家フェスティバル、吹奏楽フェスティバル、ながくてアートフェスティバル等）でカバーできる意見も出ていた。知られていない事が問題の本質か。

・ワークショップで出た意見をそのまま公演にする訳ではなく、そこから文化の家に求められるニーズや足りないものを読み取り、話し合っではどうか。

→次回までに文化の家がワークショップで出た意見を資料化する。

・要望を実現するためにどんな課題があるのかを整理する必要がある。今までに出た課題を整理したい。

■マスタープランについて

・マスタープラン簡易版をこのワーキンググループで作成してはどうか。

・マスタープランの改定作業に関わってはどうか。

→今までマスタープランに沿って行われてきた文化政策は大切なことであり、他会館に劣ってはいない。実績をもっと評価すべき。

→実績も大切だが、市民参加が足りなくてこのプロジェクトができたのでは。まず行動

して、わかった事をフィードバックしてはどうか。

→マスタープラン全般を考えるのは大変な事。市民参加の強化ならば、マスタープランの改定そのものではなく、次回改定に向けての「市民の提言」で良いのではないかな。

■今後のワーキンググループについて

- ・文化の家と言う場（ハード）をどう生かしていくかの話し合い。
- ・自主事業実行のサイクルは既にマスタープランに沿って充分まわっている。要望の吸い上げを行う場＝ワークショップ

- ・目標に向かうためには文化の家を知らなければ次のステップに進めない。

→ハード、ソフトそれぞれの情報が欲しい

→ワーキンググループ事務局をメンバー内から募って、進行や議事を管理した方が良い。

→何故事務局を作るのか？→議題ごとにグループを分けては？→下準備は必要。

→文化の家側の事務局はあるが、参加者側からも事務局メンバーを決める事に。

↓

推薦により、島田・梅村・加藤良がワーキンググループ事務局に決定。

○次回はワーキンググループ事務局でワーキンググループの準備をする。

- ・問題点の洗い出し
- ・文化の家をどうとらえるか
- ・ハード、ソフト面の整理
- ・市民優先制度がきっかけでこのプロジェクトに至ったのか？
- ・行政組織上の立ち位置（くらし文化部になることでどう変わるのか？）
 - 一般論としての市長部局と教育委員会に所管する場合のメリット・デメリットを
広中さんに次回発表を
- ・これまでの文化の家の実績・取り組みを岩瀬さんに次回発表を

○自己紹介用紙の提案があった。皆さんぜひ記入してください。

■次回のワーキンググループ：7月18日(木)19:00～